

学校だより(ねあがい)

令和元年12月24日発行 校長 石田 恵一

いよいよ2学期も今日が終業式です。2学期は、運動会・文化祭と大きな学校行事が行われた学期でした。

学校行事で子どもが変わる

学校行事をとおして、子ども達は、高い目標に向かって努力すること、仲間と心を合わせて協力してやり遂げることなど、人として大切なことを学んでいきます。勉強も、スポーツも、運動会などの学校行事もみんなそうですが、一生懸命頑張るから大変で、手加減したりあきらめれば楽かもしれません。でも、高い目標に向かい、みんなで心を合わせて、大きな努力を積み重ねてやり遂げた後に待っている、あの感動、あの達成感は、やり遂げた人にしか分からない、苦しんだ人にしか分からない素晴らしい世界だと、事あるごとに子ども達に話しています。

子ども達の自己有用感を育むことが、各中学校における課題の一つになっています。全ての子ども達が、学校行事だけでなく、勉強や部活動などの学校生活で大きな感動や達成感を積み重ねて、根上中学校でやるだけのことはやっただと、胸を張って卒業してほしいと願っています。

運動会の子供達の感想から2学期を振り返る

今回は、3年生と来年度運動会をリードする2年生の学年便りに掲載された運動会後の感想を紹介しながら、2学期の子供達の頑張りや成長を、皆さんと共に振り返りたいと思います。

「来年は僕らが」

来年は自分たちが中心となって行われる運動会。だから、僕は1年後のことを想定して運動会に臨んでいました。その中で、3年生から学ぶことがたくさんありました。学んだことは、みんなで協力することです。3年生は学競で1位を取っていました。その理由は、みんなで声をかけあっていたのと、だれかが失敗してもマイナスの言葉を言わなかったからだと思います。それに、綱引きのときは、みんなで声をかけ、その結果2勝できたと思います。他にも学ぶことがありました。それは責任です。それを特に感じたのは応援の時です。3年生はみんなが口を精一杯開けて応援をしていました。それが心に残っています。

僕たちが1年後あんな風になれるかはわからないけれど、1つだけなれるかもしれないと自信になった時がありました。それは運動会の片づけの時です。片づけの時、みんなが全力で仕事をして、終わった人も誰かの片づけを手伝っていたので、このままだったら3年生みたいになれるかと思いました。運動会では総合優勝できず、悔しい結果におわったけれど、次は文化祭で、赤団の全クラスが良い結果をとれるようにがんばりたいです。

2年男子

「仲間を信じる」

「いち・に・いち・に…」まだ私の中にLet's go together の余韻が残っている。あの時、あの場所で、四人で走れたことの喜びは忘れられない。

私達四人は、いろいろな理由により、四人での練習はそこまでできていなかった。クラスの皆からは心配してもらい、よく四人でする場合のアドバイスをもらっていた。私の中では、運動会の本番の日、四人全員がそろわないことも覚悟していた。練習で他の四人グループが走っている姿を見て、あせり等を感じ、心の中であきらめてしまう自分もいたと思う。運動会が近づくにつれ、あきらめが大きくなってしまい弱音を口にしてしまったときに、先生が、「四人、そろうことを信じて待とう。」と言ってくれた。私は仲間を信じることの大切さを忘れていたのだ。先生に気づかされ、私は仲間を信じることができるようになった。すると、その次の日、四人でそろうことができた。

偶然だが、あきらめた気持ちでそろっても、何も学べなかったと思う。信じることができた私は、心の底から喜ぶことができた。そして、四人で足をそろえて走れるように、四人で努力することができ、本番でもミスすることなく走れ、更に、走り終わったときに、私達四人が笑顔だったことは本当にうれしかった。来年も笑顔で運動会を終われるように、私は仲間を信じようと思う。

2年女子

「最後は笑顔で」

私たち三年生にとって中学校最後の運動会が終わりました。もう終わってしまったという悲しさもあったけれど、最後はどの学年も笑顔でした。今年の運動会は、運悪く雨と重なり予備の12日に行われました。1日遅れた分、みんなやる気に満ちていました。そんな中、一番盛り上がったのは、みんなが特に力を入れてきた集演と応援合戦だったと思います。

午前の部のラストである集演。最初は私達女子のガールズパフォーマンスでした。練習では自分達で教え合い暑い中頑張ってきました。踊りながら歌うのは歌わないで踊るよりもずっと体力を使うけれど、本部席や保護者の方からの声援や、回転した時に男子が前に出て踊っているのが見えたりしてキツくても楽しく踊ることが出来ました。練習が嫌な日も当然あったけれど、最後は皆「もう一回やりたい!」と口々に言っていて良かったです。

そして夏休みから歌や振り付けを考えてきた応援合戦。最初はやっぱり恥ずかしくて声がでなかったり動きが小さい人もいたけれど、だんだん皆が笑顔になって、休み時間でも練習をする人も出てきました。賞は取れなかったけど、私たち応援リーダーが考えた応援を皆で作りに上げられたのは、本当に嬉しかったです。



大行進も終わり、結果発表で言われた青団と黄団の同率優勝、小学校からの9年間、ずっと届かなかった優勝に届けたことは、すごく幸せでした。この黄団でできる運動会も最後だけれど、私たちにとっては、この三年生のメンバーで出来る運動会も最後です。結果はどうであれ、最後は皆がやり切った笑顔で終われて良かったです。これまでで一番最高の運動会でした。

3年女子

「忘れられない思い出」

私は運動会が嫌いだった。毎年、運動会の日が近づくと暗い気持ちになっていた。しかし、今年の運動会はその私を変えてくれた。学競も団競も応援も全て私にとってかけがえのない思い出となった。

その中でも特に印象に残っているのは団競の「みんなでジャンプ」だ。練習の時は跳べても十数回位で、他のクラスとくらべても普通くらいの回数だった。そして、そのまま本番を迎えた。本番でも最初は上手く跳べなかった。1回や2回で止まってしまう何だか全員が焦っているように感じた。しかしその瞬間は突然やって来た。1回跳んだ時、私はクラス全員の息が揃っているのを感じた。そのまま10回、20回と止まることなく飛び続け、なんと30回も跳ぶことが出来た。残念ながら1位にはなれなかったが、それでもクラスの新記録を出せたことが最高に嬉しかった。

他にも書き切れない程、多くの思い出をつくることが出来た。ムカデリレーで止まらずに走り切れたときは心の底から喜べたし、生徒会の仕事で令和最初の開会宣言と閉会宣言を言えたことは一生記憶に残ると思う。私はこんなに楽しい運動会があったのかと、生まれて初めて思った。そして運動会のことが少しだけ好きになった。

中学校最後の運動会は思いの他あっという間に過ぎてしまった。書き忘れていたが、結果は優勝だった。そんな重要なことを忘れてしまう程、クラスや団、学年の心が揃った瞬間は本当に素晴らしかったし、運動会は最高に楽しかった。この思い出をいつまでも大切にしていきたいと思う。

3年女子